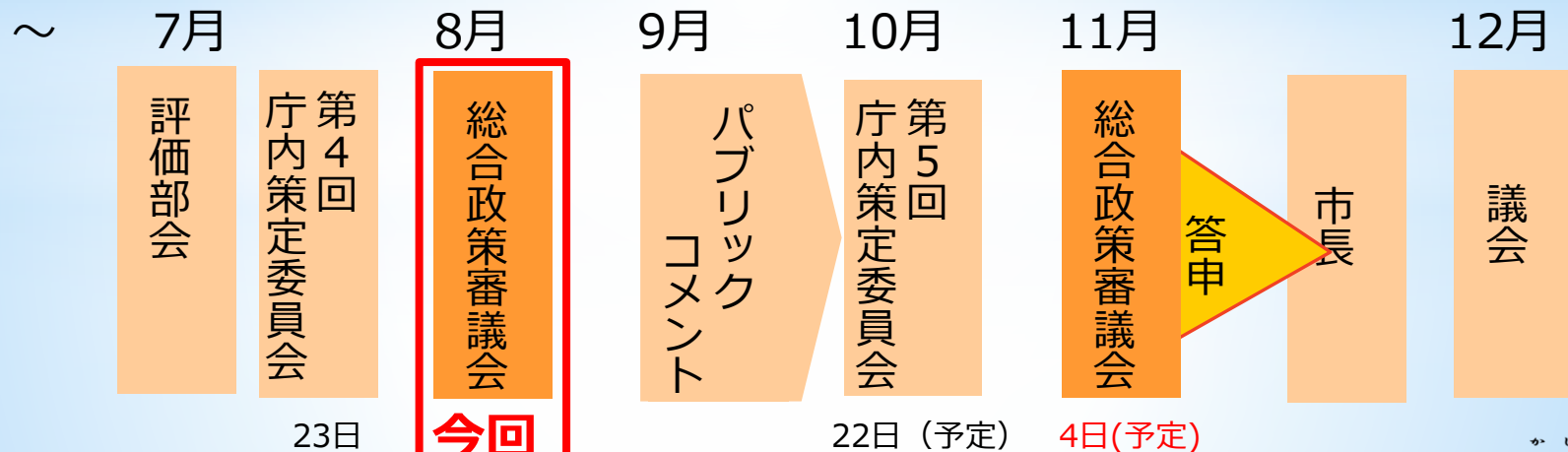
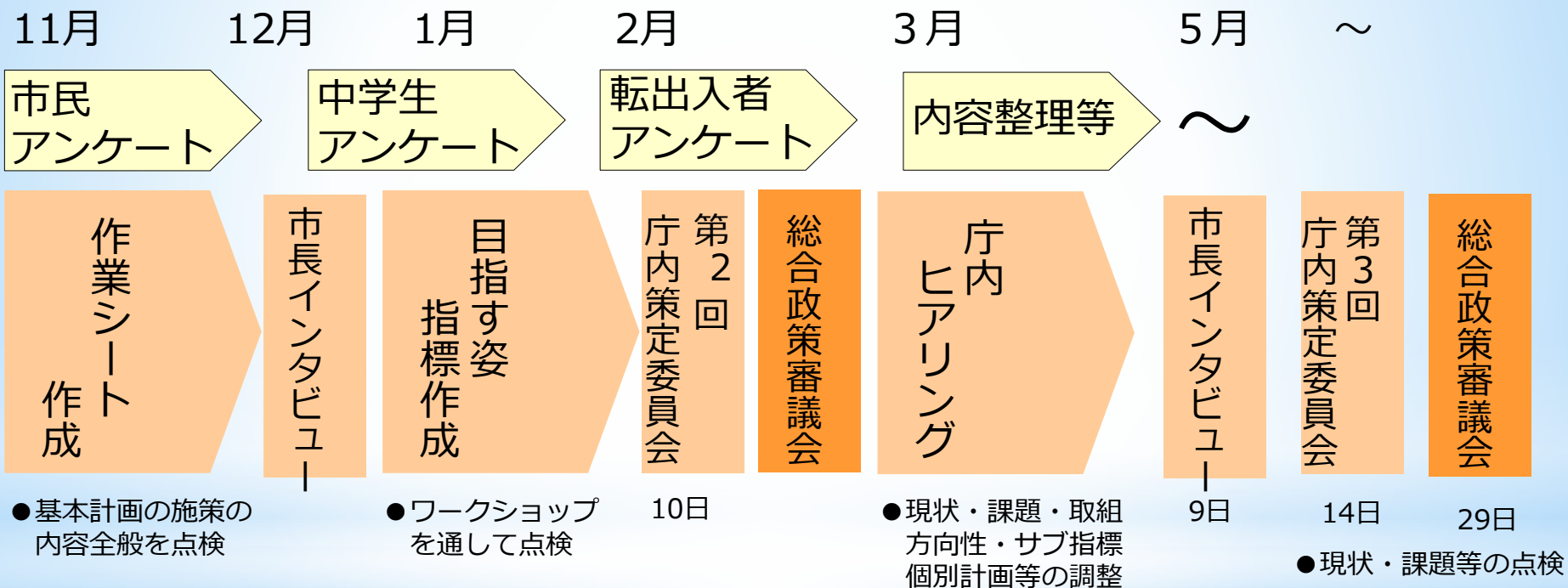


第4次檳原市総合計画後期基本計画の策定について

後期基本計画策定の進捗



●パブコメ前の点検

2

●パブコメ後、議案確定前の点検

今回点検いただきたい箇所

福原市第4次総合計画 後期基本計画

1. 保育・幼児教育

目指す姿

- ① 幼児期の子どもたちが楽しそうに活動する姿を見られるように、必要な環境が整っています。

現状

- ③ 適正な集約による保育することは、義務教育及びその後の学習の基礎を培う幼児教育にとって大変重要なことですが、本市の市立幼稚園では園児数の減少が進み、このうちいくつかの幼稚園では過小規模の状態が続いています。また、第40年を経過した施設が多くあり老朽化が進んでいます。
- ③ 就労形態の多様化や共働き世帯の増加、第2子以降保育料の無償化等に伴い、保育所への入所希望者は年々増えています。
- ③ 就労形態の多様化や共働き世帯の増加、第2子以降保育料の無償化などに伴い、保育所への入所希望者は年々増えていますが保育士不足等で受け皿が不足しています。
- ③ 保育・幼稚園施設は老朽化が進んでいます。子どもが安全に生活できるよう、計画的な施設や設備の保守管理が求められます。

課題

- ④ 幼児教育の質を向上させるためには、一定規模の集団を形成できず、幼児教育の質の低下や規範意識などを会得しにくい状況があります。また、老朽化対策としての早急な施設改修等の整備はもちろんです。現代の生活様式に適合した幼児期にふさわしい保育・教育環境を整える必要もあります。
- ④ 保育士不足等により保育所の受入れ体制が十分に整っておらず、多様な保育ニーズに対応できる体制の構築が求められます。
- ④ 保育・幼児教育の重要性は増しており、子どもの豊かな成長のため、様々な生活体験を提供していく必要があります。また、子どもの生活や発達との連続性をふまえて、小学校との交流、職員同士の交流、情報共有や相互理解等の連携が必要です。
- ④ 計画的な施設や設備の保守管理が求められており、変化する生活様式に対応した幼児期にふさわしい生活環境を整える必要があります。

1. みんなが活躍し、個性輝くまち

関連するSDGs

成果を図る指標

②

幼児期の子どもたちの笑顔が輝き、のびのびと育てられるように必要なサービス等が整っていると感じる市民の割合

実績値：〇%

取組みの方向性	方向性の説明	取組み例
⑤ 保育施設・教育施設の整備・整備	過小規模園の園区を市内全域に広げる。また、保育施設を増やすための対策を講じ、近隣の保育施設が改善しない場合は、近隣の保育施設と共同保育等の再編を進めます。また、計画に基づき順次施設の適正配置及び整備を進めます。	⑦ 計画に基づく施設の再編・整備 ● 園児数減少による園児数の増減 ● 保育士の柔軟な勤務体制の確保 ● 私立保育園の支援の充実 ● 特色のある保育の実施
保育施設・幼児教育の受け入れ体制の充実	保育士の処遇改善や働きやすい職場環境づくりで保育士の確保に努め、受け入れ体制の整備を図ります。	● 保育士の柔軟な勤務体制の確保 ● 私立保育園の支援の充実 ● 特色のある保育の実施
保育・教育の充実 子どもの発達や学びをつなぐための幼児小の接続推進	幼児小の教育のつながりを意識した活動を取り入れ、子どもの豊かな体験を生み出します。また、主体的、対話的で深い学びを提供します。	● 保育サービスの情報提供 ● 地域との交流 ● 相互理解の促進 ● 架け橋プログラムの作成実施
施設等の適切な維持管理	子どもが安全に過ごすための、施設等の適切な維持管理を実施します。特に、幼稚園・こども園のトイレを明るく楽しいトイレに改修します。	● 施設等の適切な維持管理 ● トイレの改修

関連する個別計画

⑧

- ▶ 福原市食育推進計画
- ▶ 子ども・子育て支援事業計画
- ▶ 福原市就学前保育・教育指針
- ▶ 福原市就学前保育・教育指針
- ▶ 就学前保育・教育のあり方と適正配置についての基本方針
- ▶ 福原市学校施設整備基本計画
- ▶ 福原市教育施設再配置基本方針
- ▶ 福原市発達障がい者支援推進プログラム
- ▶ 福原市教育大綱

① 目指す姿

② 成果指標

③ 現状

④ 課題

⑤ 取組みの方向性

⑥ 方向性の説明

⑦ 取組例

⑧ 個別計画

+ サブ指標

総合政策審議会の意見を反映して、再度提出いただいた、後期基本計画の内容とサブ指標について、再確認をお願いします。

見直しのポイントの確認

●目指す姿、成果を測る指標

目指す姿

- 職員が共通して具体的にイメージできる内容

成果を図る指標

- 市内 目指す姿に関連し、市民が評価できる内容 感じる市民の割合

●現状～取組み例の一連の流れ

現状	課題	取組みの方向性	方向性の説明	取組み例
<ul style="list-style-type: none"> 適正な集団規模を確保することは、義務教育及びその後の教育の基礎を培う幼児教育にと <p>現在の社会情勢等の客観的な事象</p>	<ul style="list-style-type: none"> 幼児教育に必要な一定規模の集団を形成できず、待機期に陥るべき協調性や規範意識など <p>現状に対する市として設定する課題</p>	<p>課題に対する取り組みの方向性</p>	<p>方向性の内容説明</p>	<p>実際の取組み例</p>
<p>また、築40年を経過した施設が多くあり老朽化が進んでいます。</p>	<p>期にふさわしい保育・教育環境を整える必要があります。</p>		<p>過小規模園の園区を市内全域に広げます。また、計画に基づき順次施設の適正配置及び整備を進めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 計画に基づく施設の再編・整備

●課題を解決する取組みを測る指標となっているか

サブ指標一覧表			資料2-3	
	指標名		初期値	目標値
	1.保育・幼児教育	対応する指標 (掲載している順番になっています)	6	0
			95	0
			0	13
			0	5